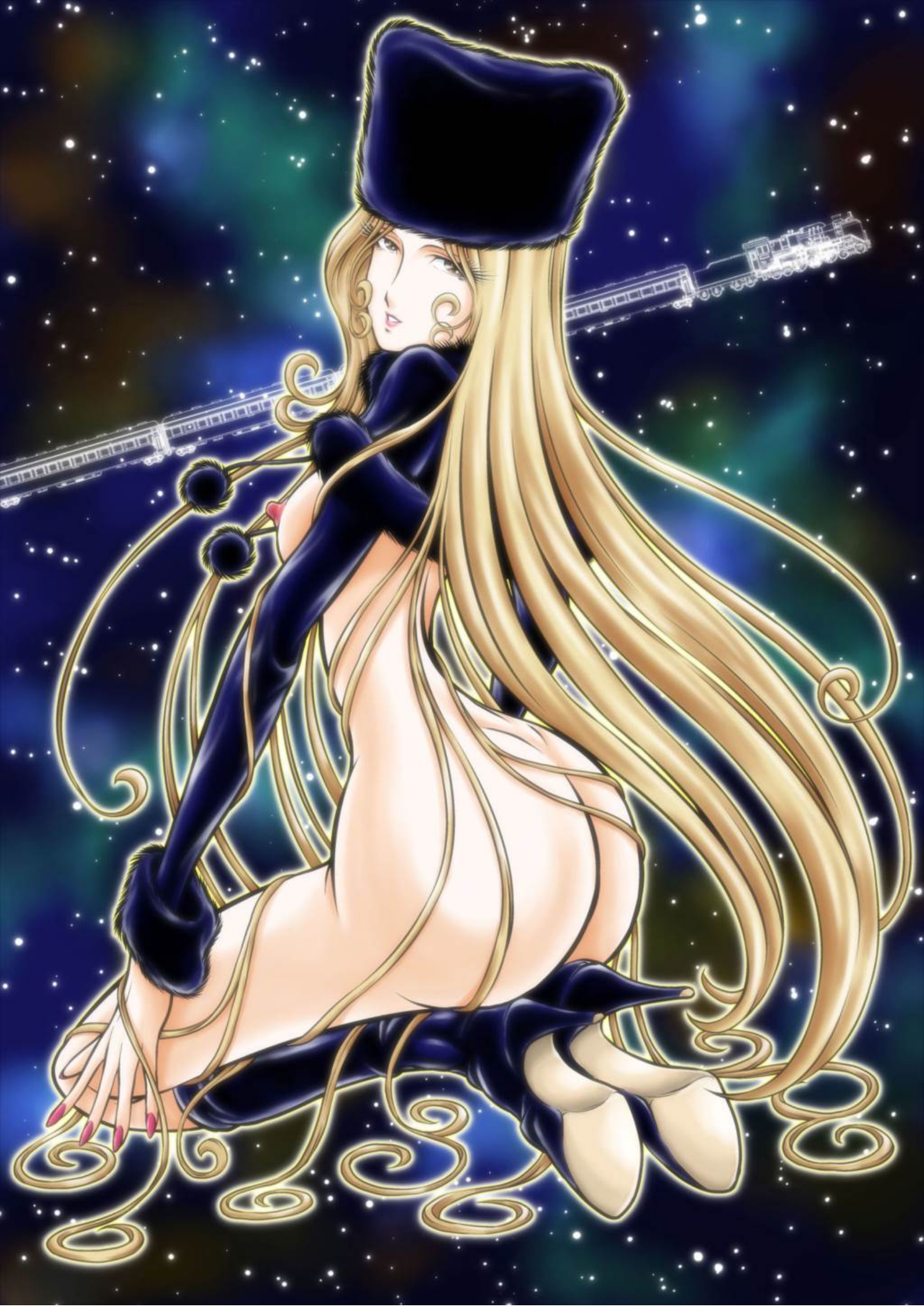
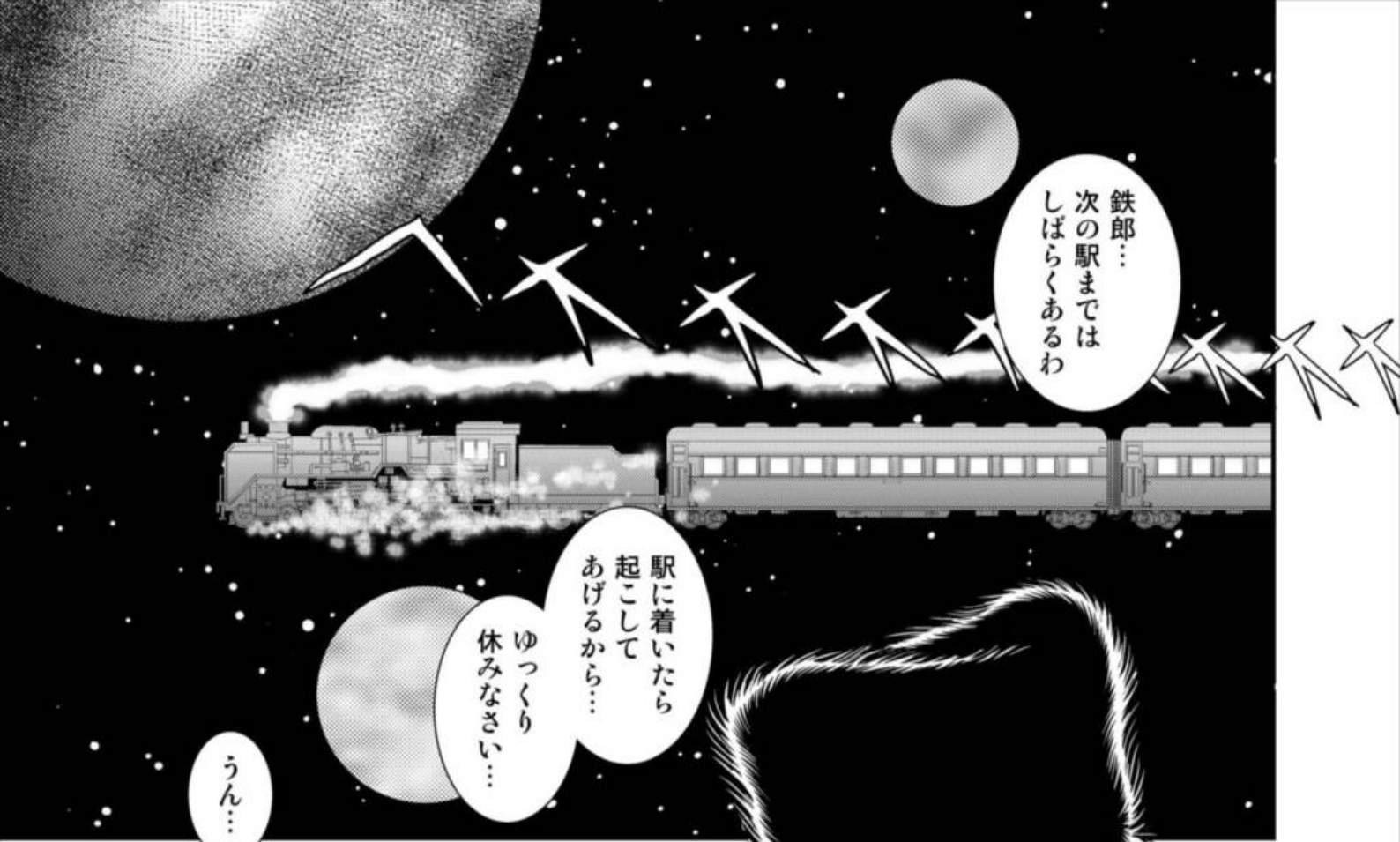


Maelzel Story 13

from GALAXY EXPRESS 999 with Love





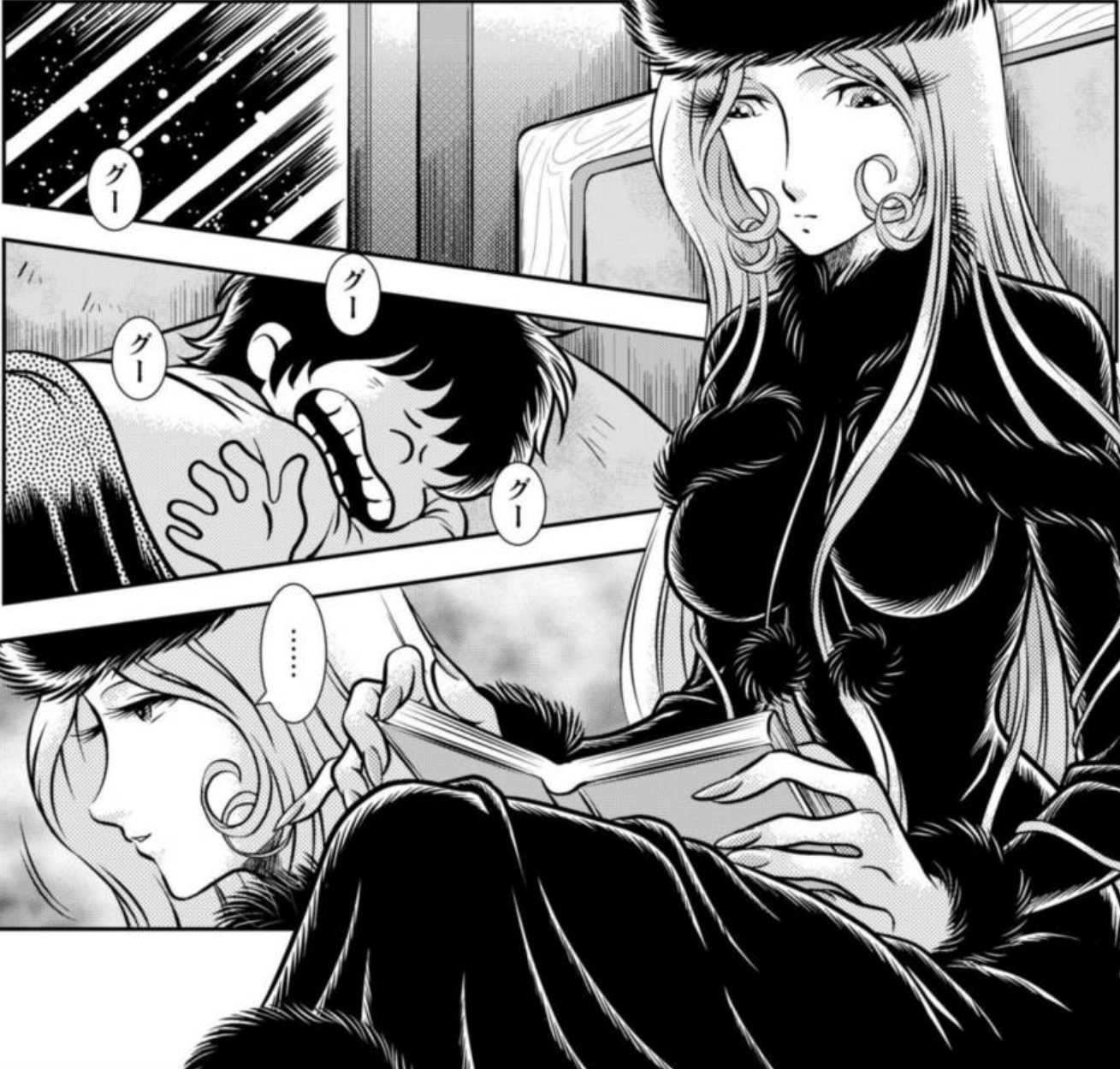


鉄郎：
次の駅までは
しばらくあるわ

駅に着いたら
起こして
あげるから…

ゆっくり
休みなさい…

うん…



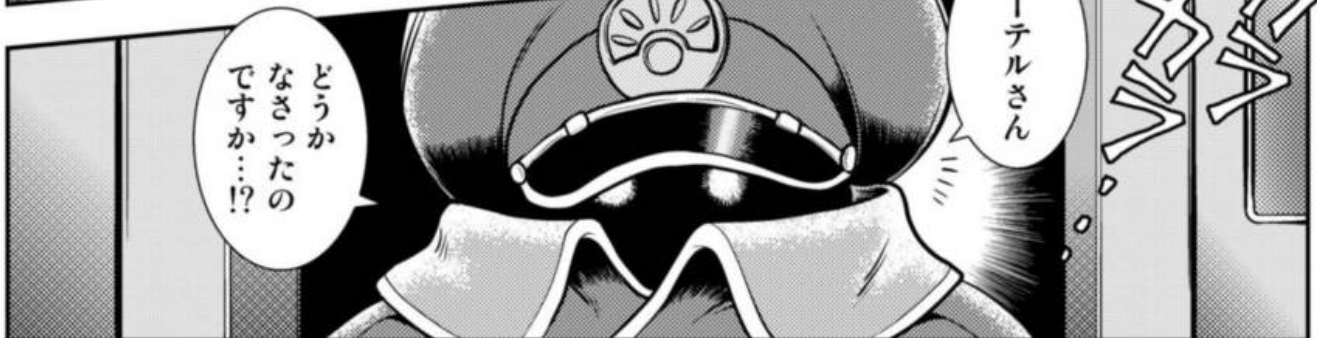
グー

グー

グー

グー

……





車掌さん…

少し…
いいかしら!?

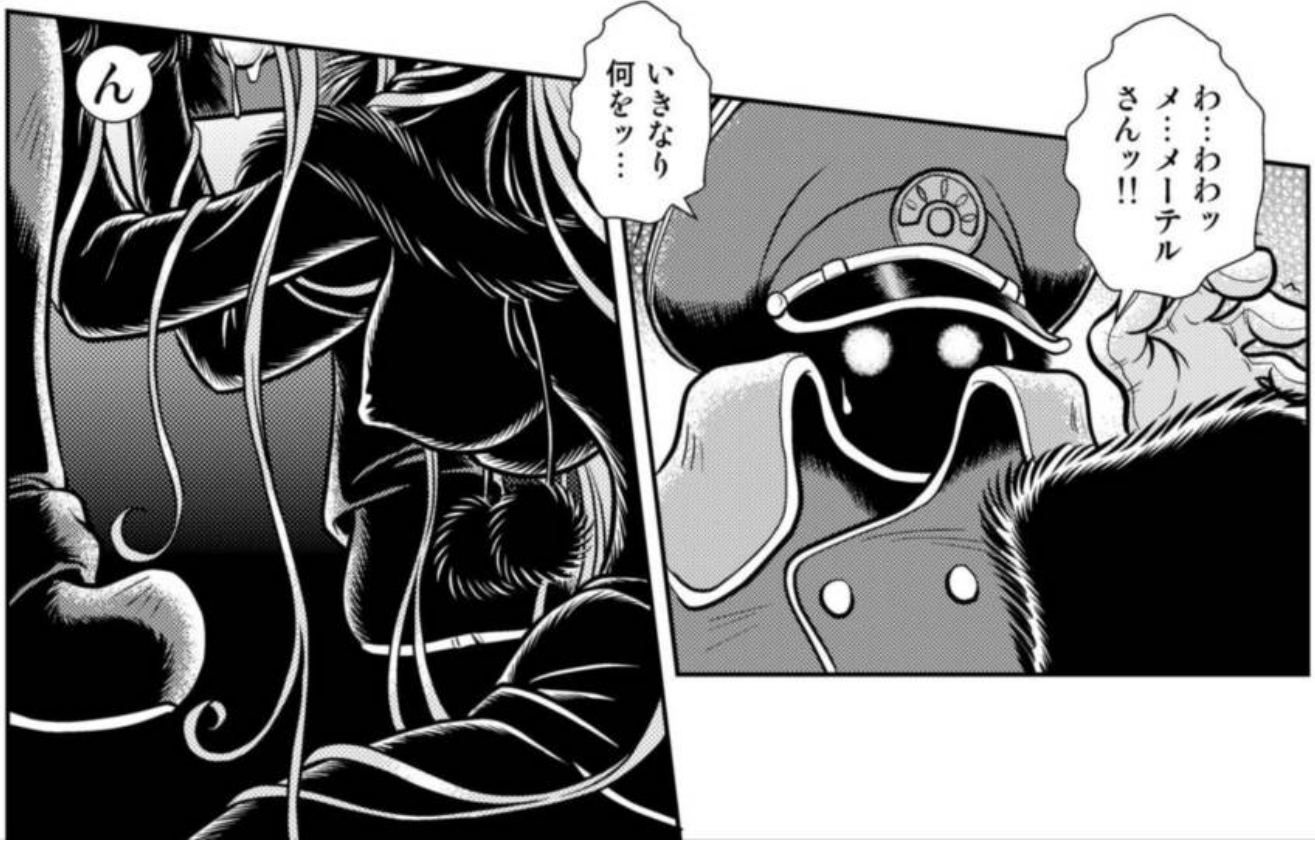
カクカク

ええ…
お願いしたい
ことがあるのよ…
とりあえず中で…
ゆっくり
お話ししましょ…

車掌室

カクカク

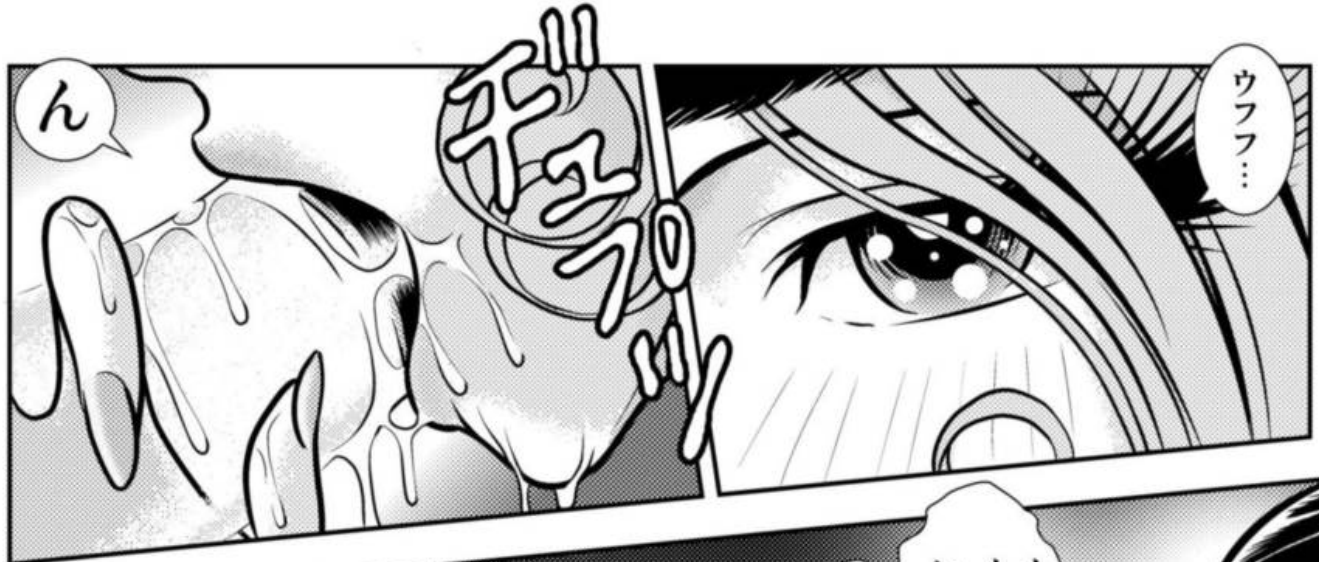
何か
ご用ですか!?



ん

いきなり
何をッ…

わ…わわッ
メ…メーテル
さんッ!!



ウフフ...

ん

フェル

メ...
メーテルさんッ
いけません...
こ...困ります...
そ...それに...
勤務中ですし...

あわあわわ...

むぐ...

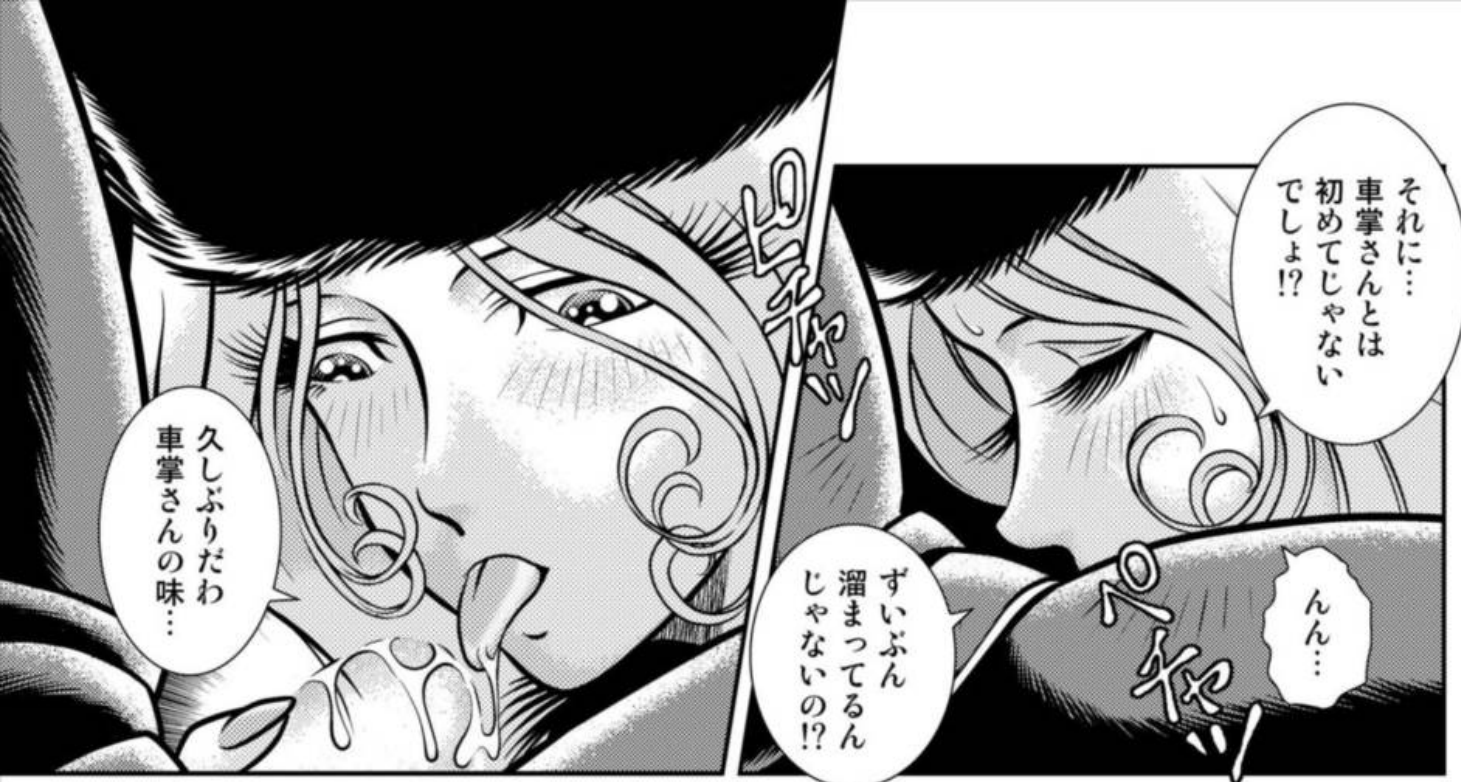
フェル

んん...

ほら...
動かないで
じっとしてて...

歯が当たっ
ちやうわ...

も...



それに：
車掌さんとは
初めてじゃない
でしょ!?

んん…

ずいぶん
溜まってるん
じゃないの!?

久しぶりだわ
車掌さんの味…



鉄郎とは違う
大人の味…

ウフフ…

そんな事
いって

すっかり
固くなってるのが
分かるわよ…

そ…それは
メーテルさんが
お上手だから…

いえ…
そうじゃなくて

あれはまだ
メーテルさんが
鉄郎さんと出会う
前の話ですし…

それに今は
鉄郎さんが
おいでになるでは
ありませんか…



もちろん
鉄郎の事は
愛してるわ…

私は鉄郎に
身も心も捧げた
女ですもの…

ハア

ハア

でもたとえ身体を
許しても心までは
裏切ってはいないわ…



あわあわ…
メーテルさん…



それに…
私だって…

スルル



たまには…
違う料理を食べて
みたくなるよ…
あるのよ…

ウフフ…
分かるでしょ…

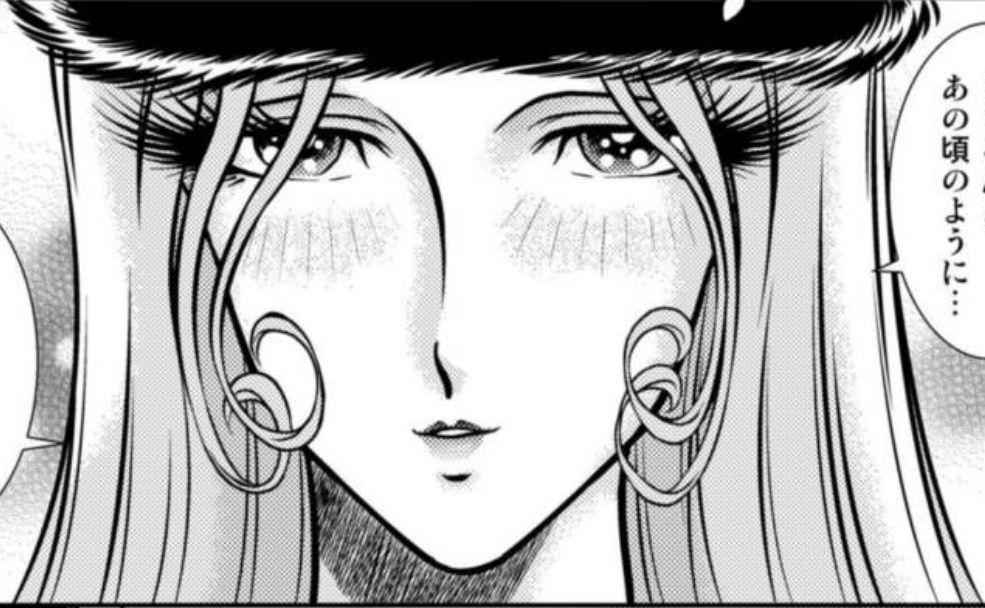
さあ…
車掌さん

鉄郎が目を覚まして
起きてこないうちに
たっぷりと…
お願い…ね!!

もう…
こんなに濡れ
てるの…

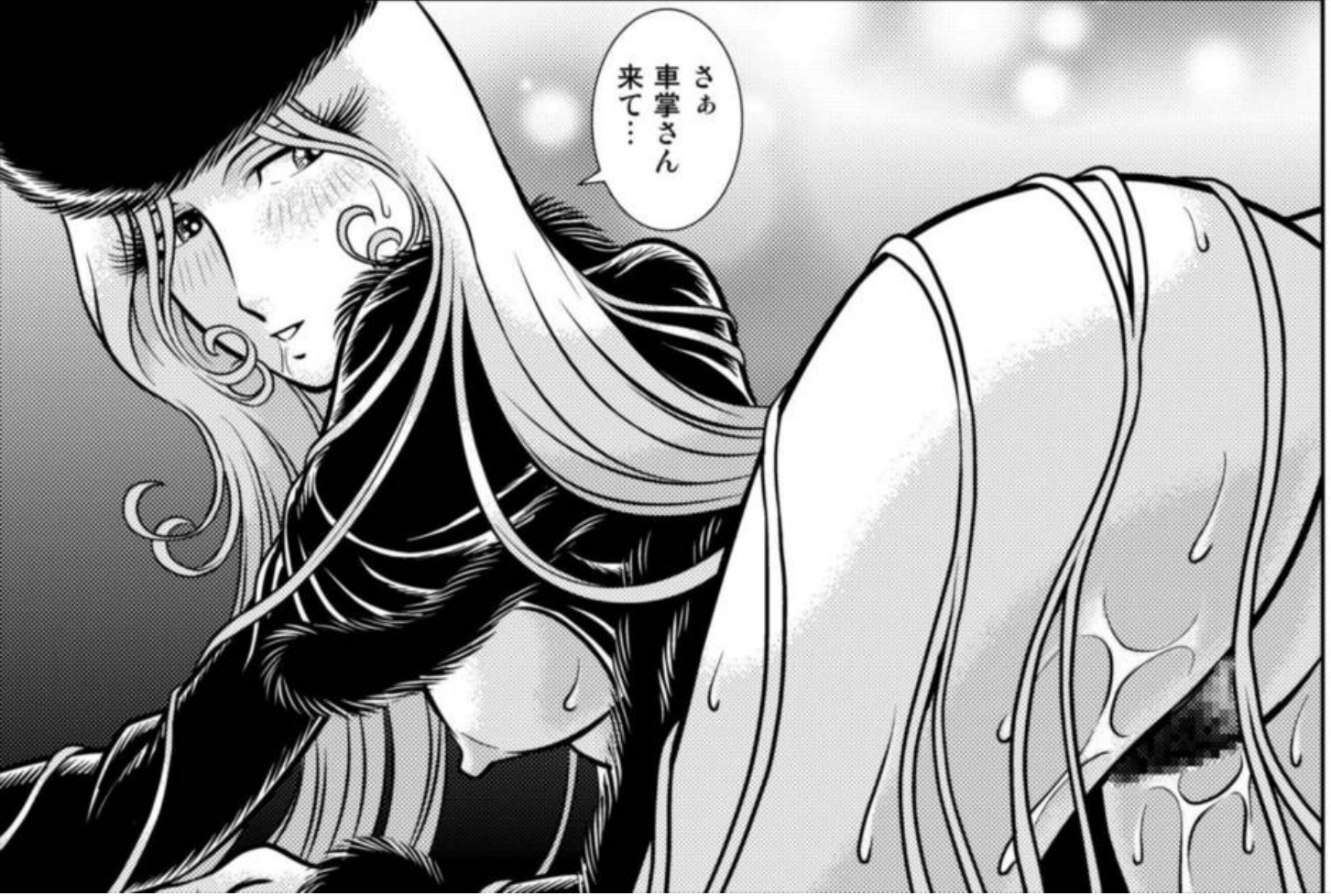


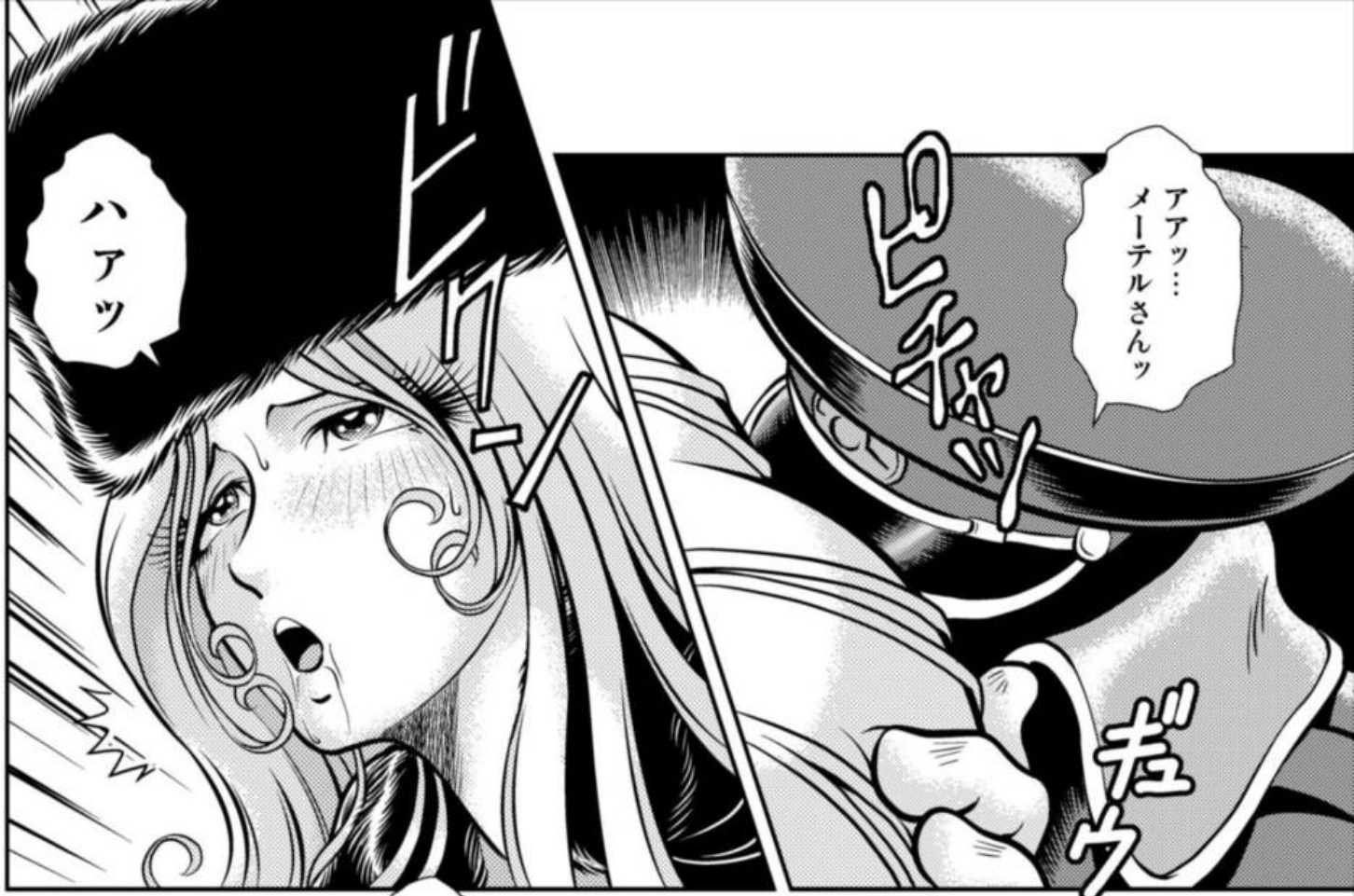
思う存分…私を
食べてちょうだい…



ええ…
もちろんよ
あの頃のように…

さあ
車掌さん
来て…





ハアツ

アアツ…
メーテルさんッ

ドキッ

ギュウ



アアツ

ああ…
車掌さん…

ンッ

い…い…
わ…わ…

ワグワグ

ヒクヒク



久しぶりに
味わう：
メーテルさんは
格別ですハイ：

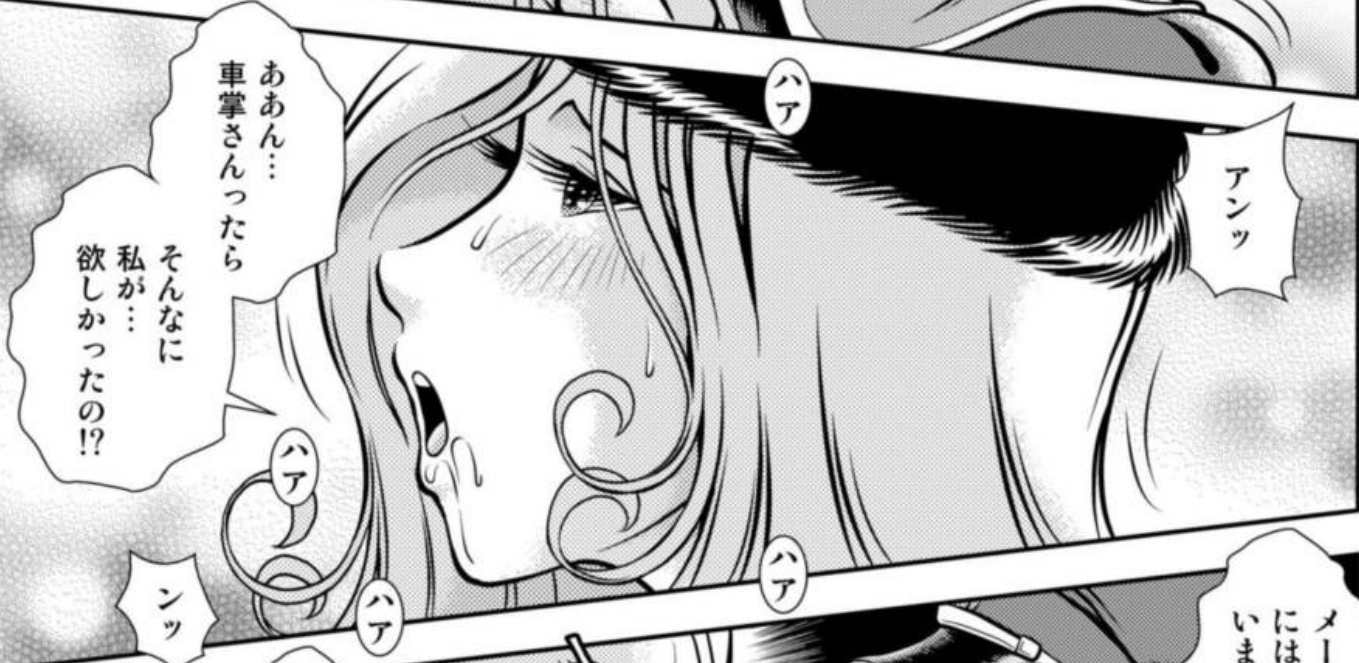
この身体を
どれだけ
待ち焦がれて
いたことか：

ハア

アッ

ハア
チャッ

ハア



アンツ

ああん：
車掌さんったら

そんなに
私が：
欲しかったの!?

ハア

ハア

ハア

ンツ



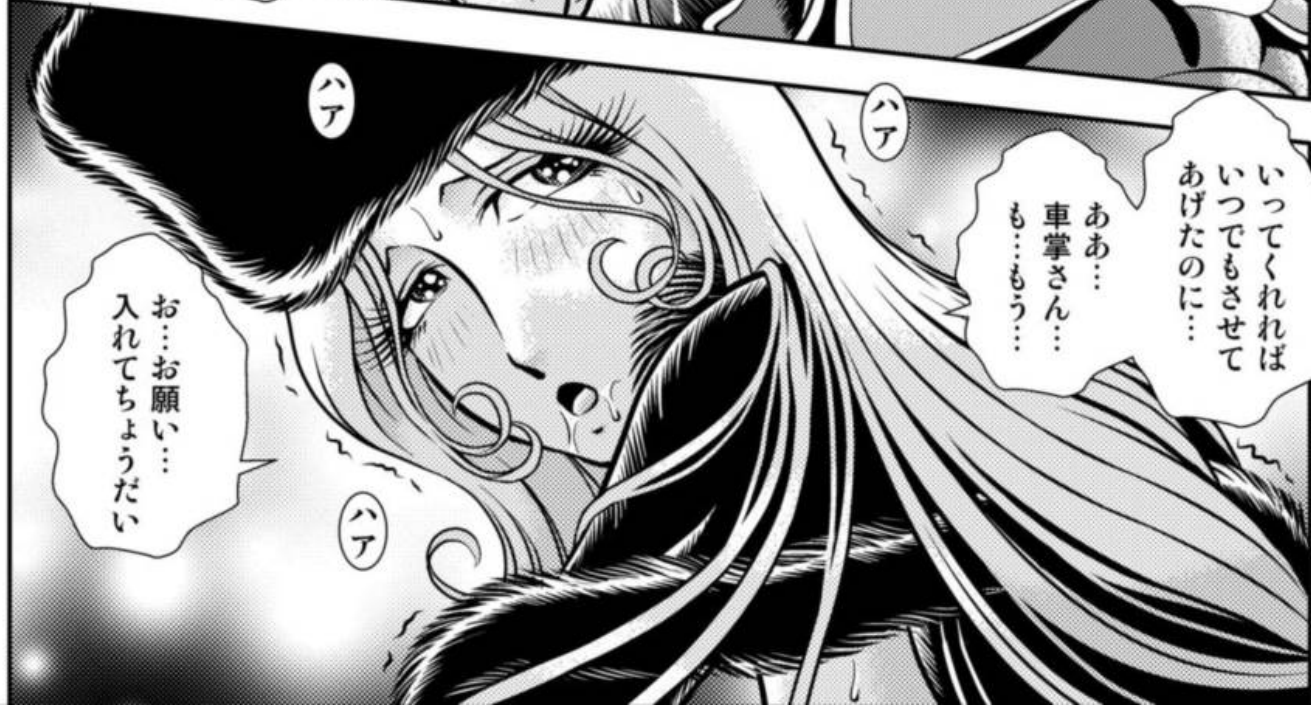
メーテルさん
には鉄郎さんが：
いますし：

ああ：
そんな：

ハア

ハア

ハア



いつてくれれば
いつでもさせて
あげたのに：

ああ：
車掌さん：
も…もう：

お…お願い：
入れてちょうだい

ハア

早く…
車掌さん

ハア

ハア

ハア

アアッ

アヒッ

ヒッ

それでは…
遠慮なく頂かせて
もらいますです
ハイ…

ハア

ニンッ

アッ
アッ
アッ







い...いいわッ
車掌さんッ!!

ハア

アアッ

ハア

ハア

アヒッ

もっど...
もっと強く
突いてえッ!!

ハア



いいッ...
気持ちいいッ

ハア

アッ

わ...私も...
イキそう...

ハア

メ...
メーテルさん

ンッ

ハア

ハア

ハア

いいわ：
車掌さん
出してッ

車掌さんの
とびきり
濃い精液を…

膣内ちゅうないに
思いっきり
出してッ!!…

たっぷり
溜ためまってるん
でしょ…

では…
遠慮無く…
出させていた
だきますです
ハイ…

ううッ…

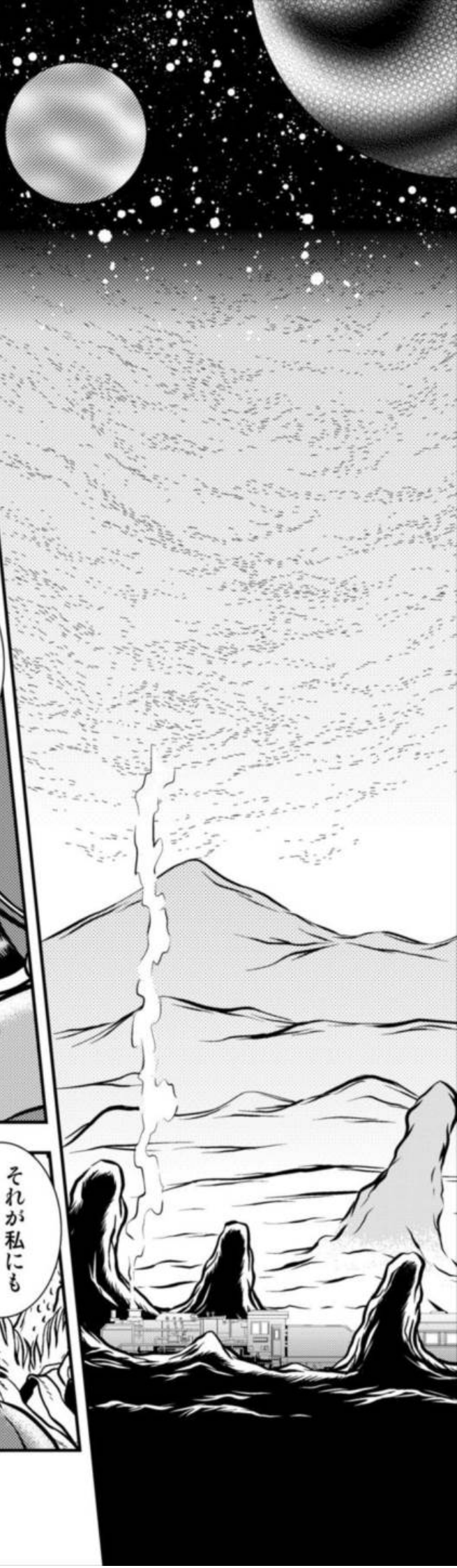
メーテル
さんッ!!

アアッ

車掌さんッ









機関車も
機能を停止していて
原因を究明できない
有様でして…ハイ…

それは
変ね…

それよりも
鉄郎を見なかった
かしら…!?

車内に
いないのよ…

いえ…
私はお見かけして
おりませんです
ハイ…

あの子
まさか…



一人で…
外へ出歩いて
行ったのかしら

ホントに
困った人ね…
好奇心だけは人一倍
旺盛なんだから…

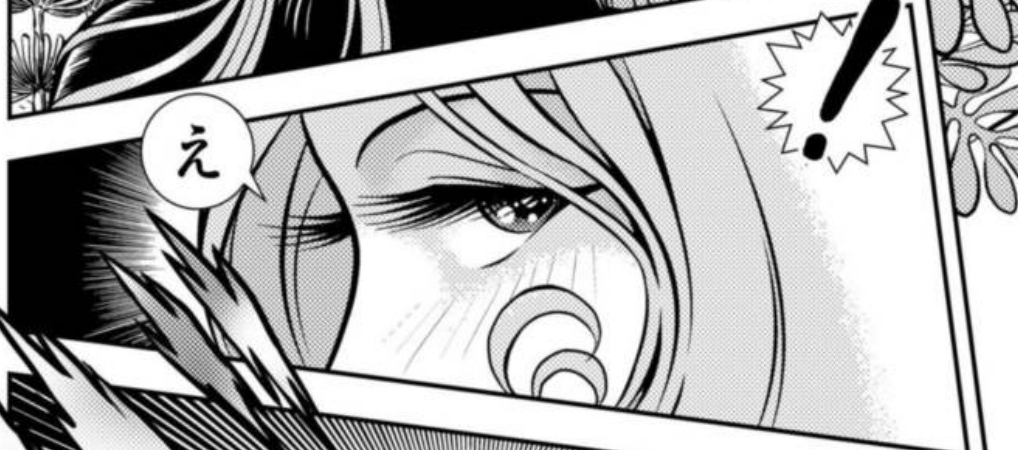
ここが危険か
どうか分からない
というのに…

鉄郎さんなら
考えられる
事ですね…





鉄郎…



え



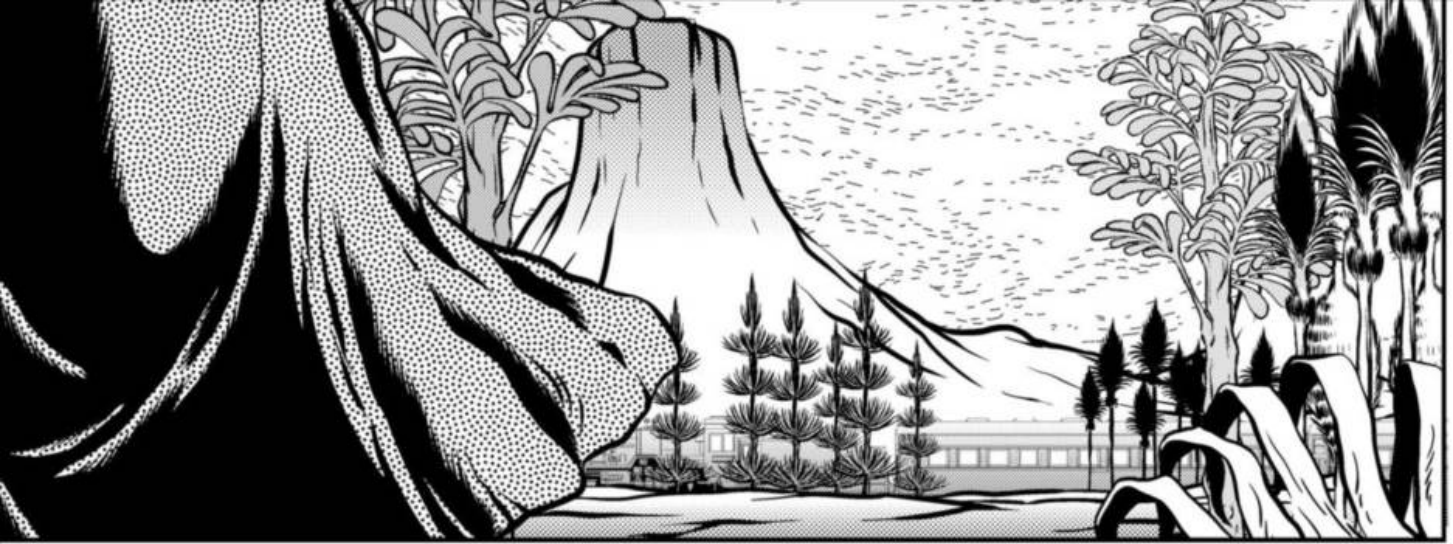
私が探して
きましようか!?

いいわ…
私が連れ戻して
くるから…

車掌さんは
列車が止まった
原因の究明を
お願い…

分かりました
お気をつけて
メートルさん…









あなた達の
ために働く
なんてまっぴら
ごめんだわ…

すぐに私を放して
鉄郎のもとへ
帰しなさい…

フフフ…
いつまで強がって
いられるかな!?

君が気を失って
いる間に薬を
投与してある…

しきに
身体が自由が
きかなくなる

あ

そして我々の
従順な牝奴隷に
なるのだ…

カ
チ

セット
起動!!

まずは君の
身体に刺激を
与えて:

卵子を
出来るだけ
たくさん造って
もらおう:

ンッ

ああ...
や...やめて...

て...鉄郎...
助けて...

アアッ

ヒイッ

ここは時空間が
異なる次元の狭間...
我々以外入る事は
出来ない:

抵抗しても
無駄だ:
メーテル:

すぐに君は
我々の子供を
造るための
牝になるのだ:



ああッ…
や…やめて…
やめなさいッ!!

アッ

アアンッ

い…いやッ
な…何を…
何をするの…

ンンッ

だ…だめ…
こ…この感じ…
し…子宮が…
降りて…くる…!?

な…何…!?
お腹の中が
あ…熱い…

ゴッゴッ
ゴッゴッ



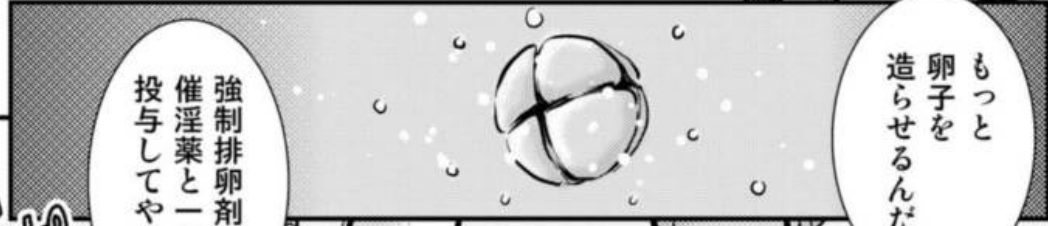
120本です

我々の繁栄の
ためには
まだまだ
少なすぎる!!



受精管は
何本になった!?

もっと
卵子を
造らせるんだ



強制排卵剤を
催淫薬と一緒に
投与してやれ!

ゴホゴホ

カクカク

ブルブルツ

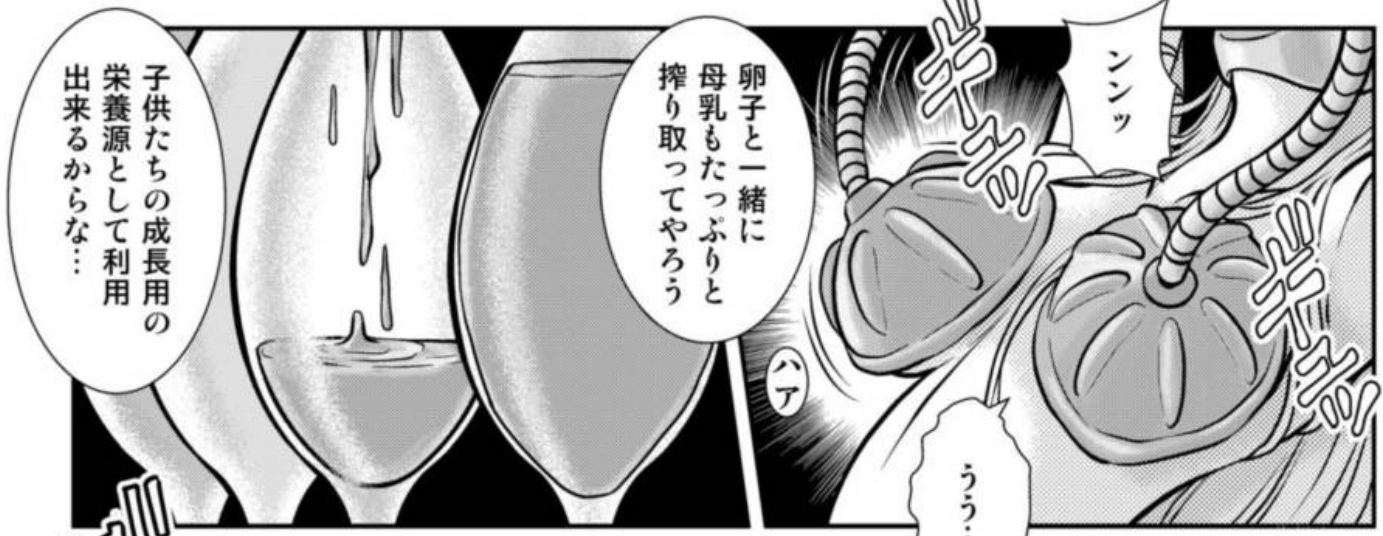
ゴクゴク



ウウツ...

ゴクゴクツツ

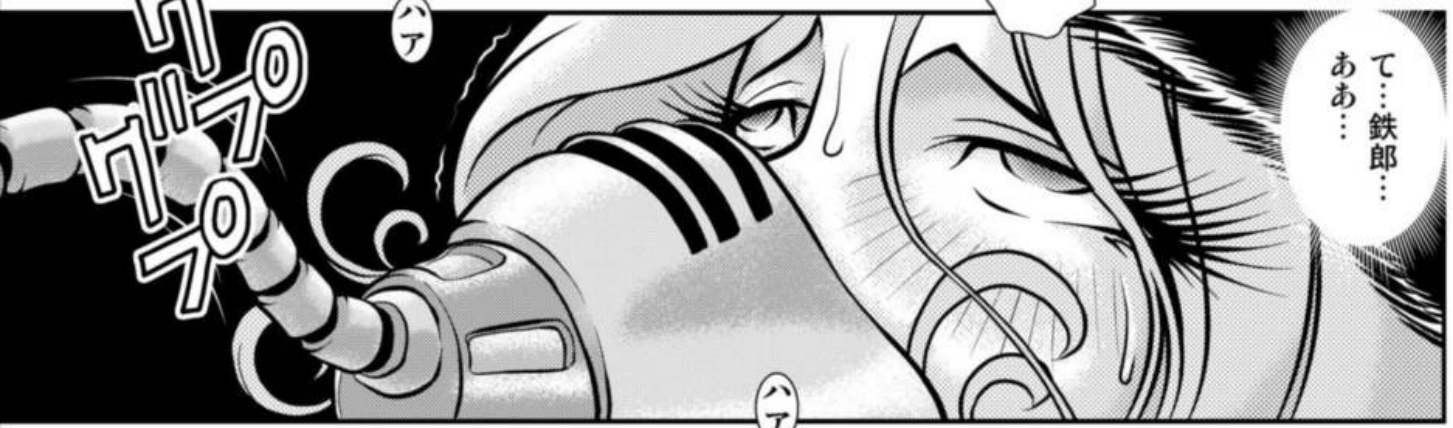
んぐんぐ...



子供たちの成長用の
栄養源として利用
出来るからな…

卵子と一緒に
母乳もたつぷりと
搾り取ってやろう

ハア
うう…



ハア
ハア

て…鉄郎…
ああ…



これ以上は…
しばらく時間を
置かないと無理
かと…

受精管が
500本になり
ました

ハア
ハア



少しは楽しみを
与えてやろう…

ハア
ハア
ああ…

では…
卵子の製造は
ひとまず中止して



なにしろ
我々は
宇宙人類中：
そのほうでは
一番体質的に
すぐれている
からな…

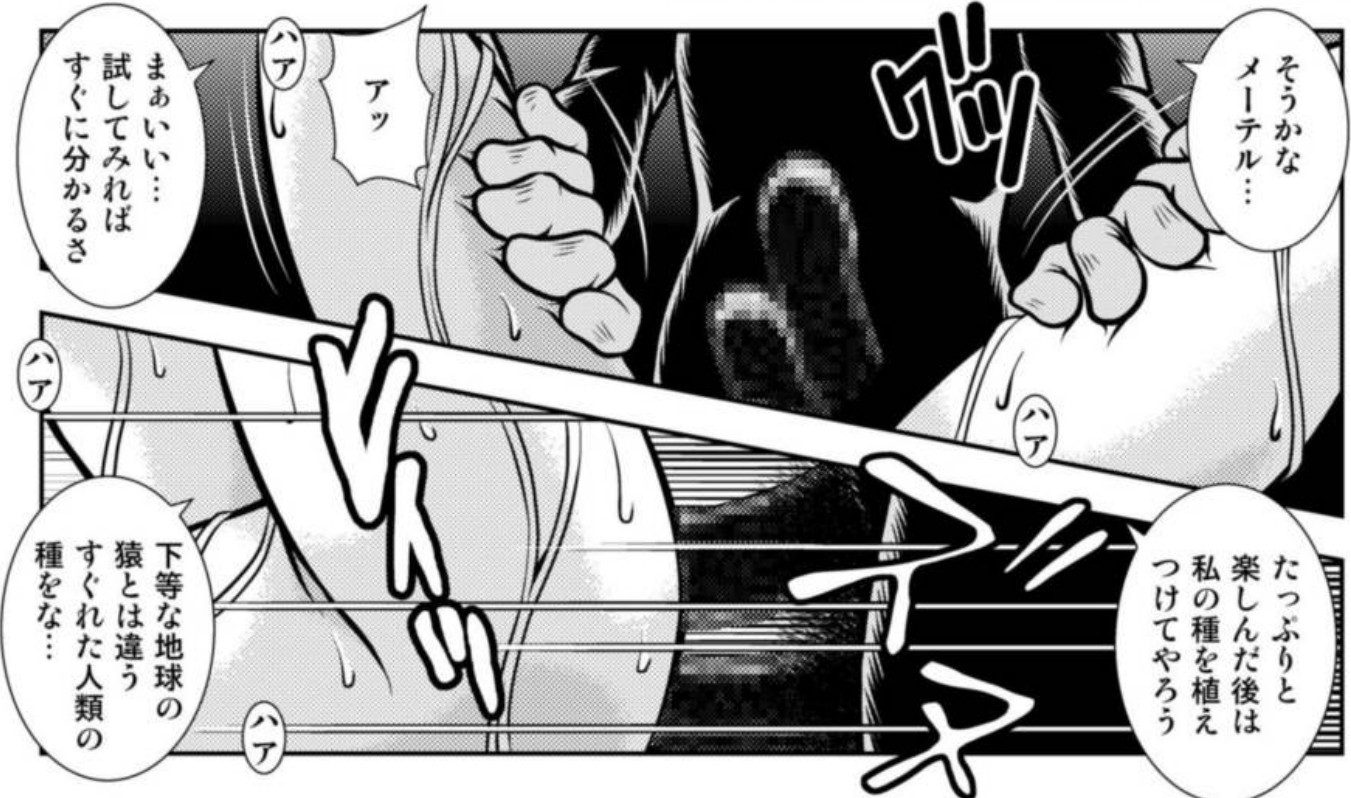
ああ…

ハア

ハア

あなた達は
人類なんかじゃ
ないわへド…

ハア



そうかな
メートル…

グッ

アッ

ハア

まあいい…
試してみれば
すぐに分かるさ

たつぷりと
楽しんだ後は
私の種を植え
つけてやろう

ハア

ハア

下等な地球の
猿とは違う
すぐれた人類の
種をな…

ハア



アアッ

ヒッ

ハア

アウッ

ハア

ハア

そして…
我々の子供を
産み続けるのだ
メーテル…

ニンッ

アッ

あ…
ああ…

ハア

ズッ
ズッ
ズッ
ズッ

ハア



それにしても…
お前は素晴らしい
メーテル…

下等な猿の
相手をさせて
おくには勿体ない

ハア

アンッ

や…
やめてッ

ハア

ら…ら…
ヤッ

グッ
グッ
グッ
グッ

グッ
グッ
グッ
グッ

身体は正直だぞ
メーテル…

私のモノを
すんなり受け入れて
くれているじゃないか
ええ!?…

アアッ

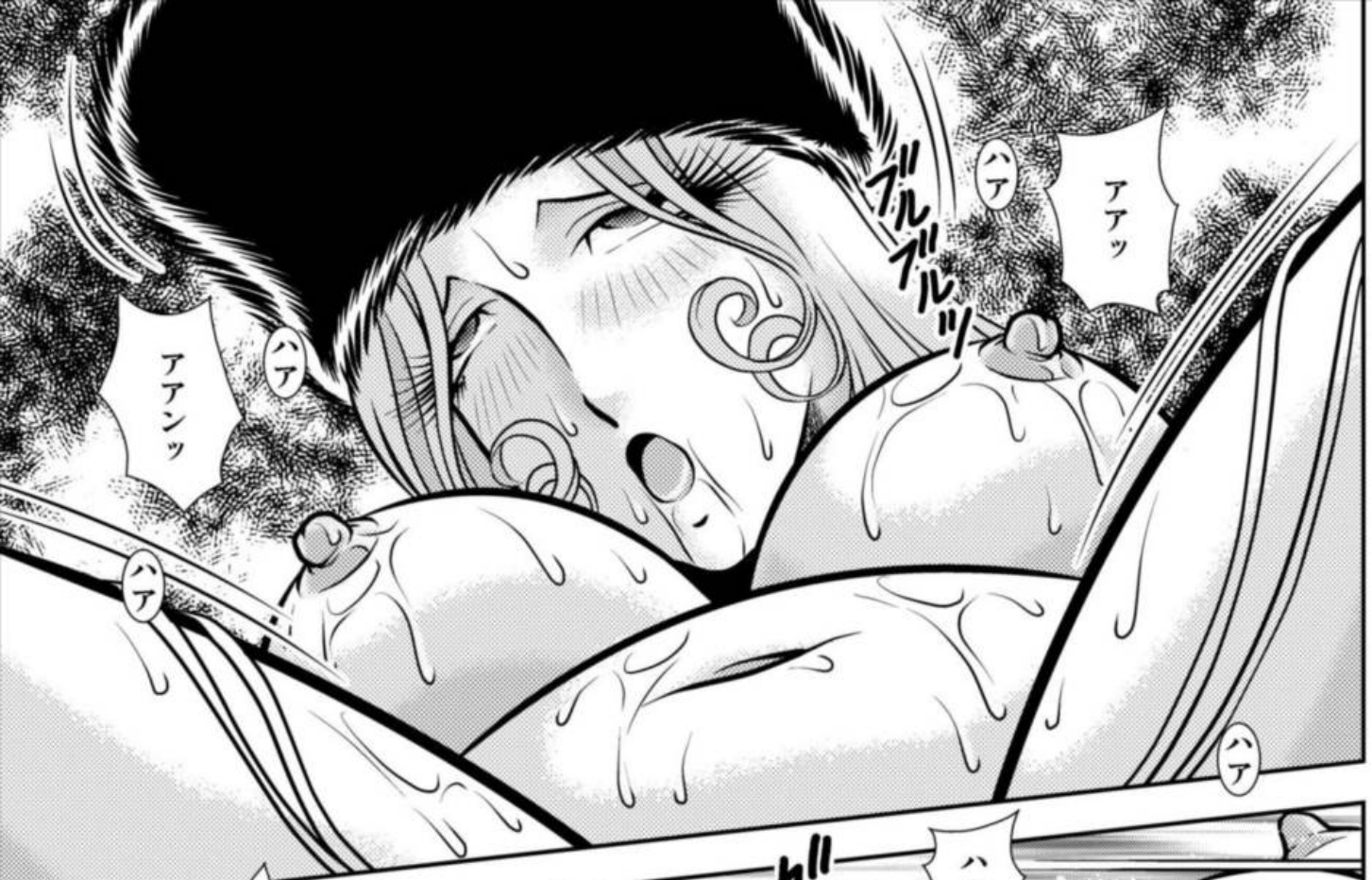
アウッ

アッ

ち…違うッ…
そ…そんな事…
あ…ああん…

アンッ

ヒイ







本当に：
妊娠しちゃうッ！！

だ…だめッ！！
お願い…腔内は…
許してッ…
今…腔内に…
出されたら…



ズッ

ズッ
グッ
ズッ
グッ
ズッ
グッ
ズッ
グッ



ヒッ

ハア

ハア

ガクガク

ハア

あああ…
だ…だめ

アアッ

い…
いやああッ

ハア

あうう…

ハア

ああ…
どんだん…
流れ込んでくる

ハア

子宮にまで
き…て…る…

赤ちゃん
できちやうッ

ビュッ
ビュッ

ビュッ
ビュッ



ううう…

ハア

ああ…
お腹の中が
熱い…

私の精を搾り
だそうと一段と
締めつけてる
じゃないか…

いきがっても
所詮は飢えた牝犬だ
メーテル…

ブルブルッ

ハア

ハア



ククク…
どうやらなら
受精したようだな

ヒッ

ブルッ

ハア

ハア



ああ…
鉄郎…
許して…

あなた達は
ただの…
ケダモノだわ…

ううう…
ひ…ひどい…

私は…もう…
あなたのもとへは…
帰れない…

ハア

ハア

ハア

ハア

ハア

ハア



ククク…
だいぶ大きく
なったようだな
メートル…

あ…
ああ…



ああ…

ハア

ハア

ハア

う…
う…
うう…

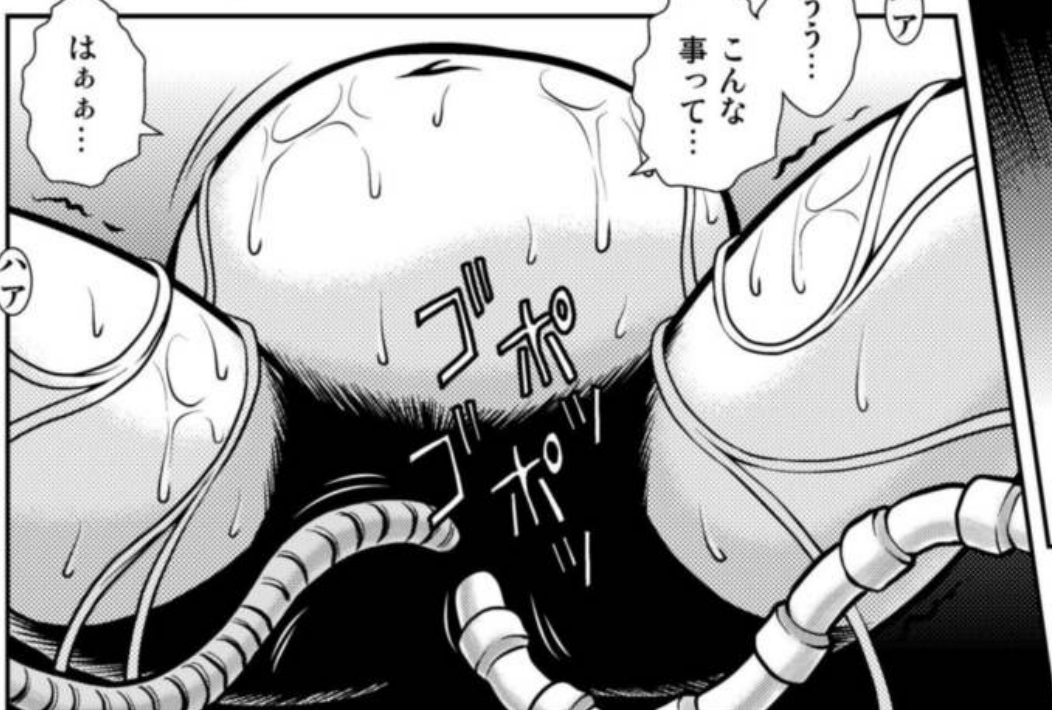


あああ…

まだ受精して
間もないのに…
こんな…

ハア

ハア



はああ…

こんな
事って…

うう…

ハア

ハア

これなら
産まれるのも
じきだな…

ああ…

う…うう…

ククク…
どうだねメーテル
私の子供を身籠もった
気分は!?!…

妊婦姿も
一段と美しいぞ…
メーテル…

タタタ

ゴホゴホ

ハア

ハア

ハア

ハア

ハア

ハア

ハア

ハア

ハア





ああ…ああ…
お…お願い…

もっと…
やさしく…
して…

ずいぶんと
しおらしく
なったじゃないか
メーテル…

ああん…

アッ

ハア

ハア

ハア

アッ

ククク…
母乳もだいぶ
溜まってきた
ようだな…

ヒッ

そ…そんなに
強く…
搾らないでッ

ハア

ハア

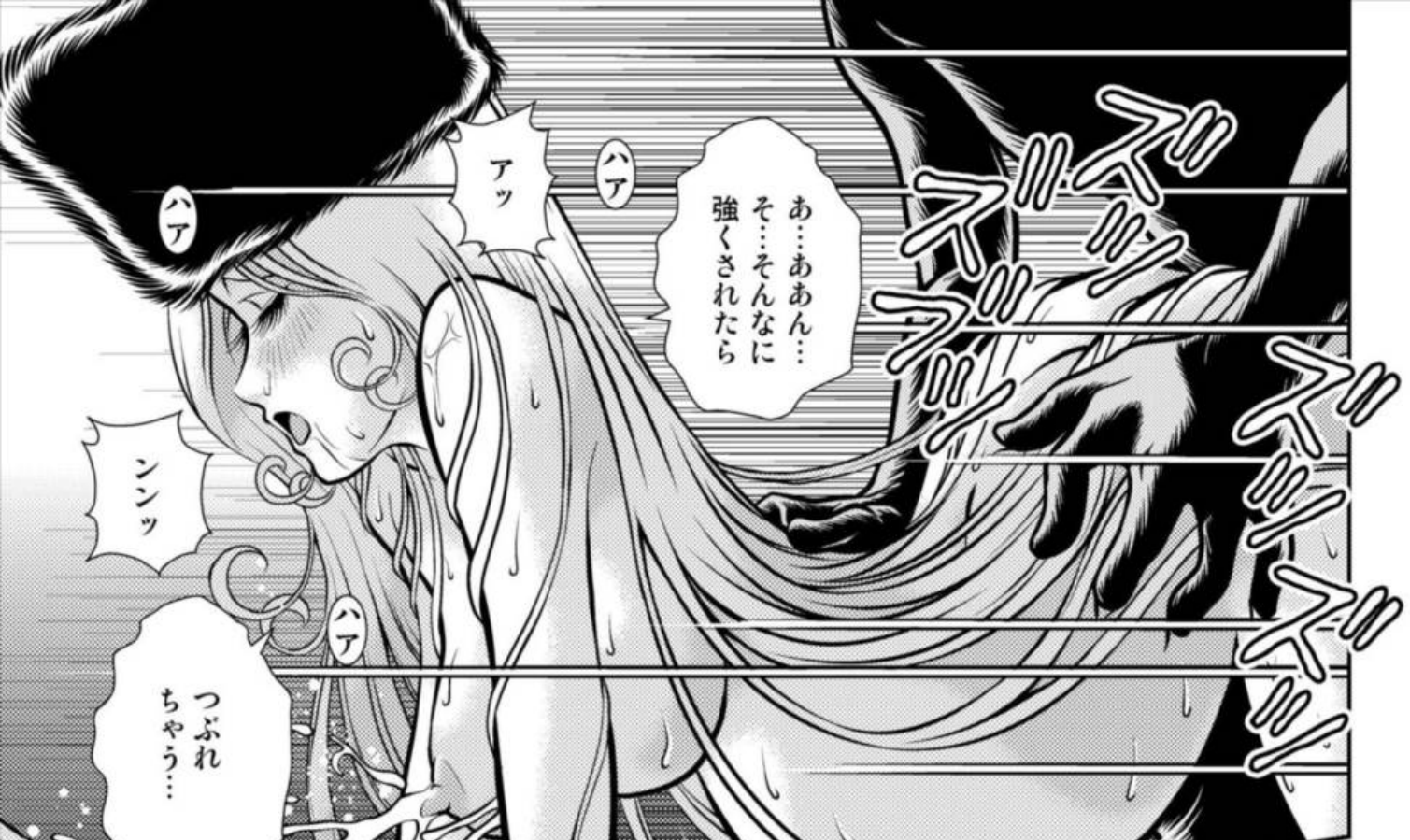
ああ…
赤ちゃんの…
母乳が…

ガッ
ガッ
ガッ

ズ
ズ
ズ

ギョ
ギョ
ギョ

ケッ



あ…ああん…
そ…そんな
強くされたら

ズズズ
ズズズ
ズズズ
ズズズ
ズズズ

ハア

アッ

ハア

ニンッ

ハア

つぶれ
ちやう…



ククク…
すっかり
母親きどりだな
メーテル…

ズズズ
ズズズ
ズズズ

ヒッ

ハア

ハア

誰が…
妊娠させた
思ってるのッ

ハア

アッ

ハア

お腹の中に
いるのは…
あなたの
赤ちゃんなのよ

ああ…
い…いいッ



あ...ああ...

ウフ...

私の...
赤ちゃん...

もう...
こんなに
大きく...



特殊な培養液で
成長を促進して
いるのだ...

ククク...

数時間で
産まれるまで
成長する...

これからは
何人でも
孕ませて
やろう...

ハア

あ…ああ…
あはあ…

私の…
赤ちゃん…
ウフフ…

ハア

ハア

ハア

急激な成長による
ホルモンバランスの
崩壊で母性本能を
狂わされたか…

ハア

すっかり…
子供を産む事に
ためらいが
無くなったな…

ハア

お腹の中で…
動いてる…

産まれた
がつてる…

早く…
出てきて…

所詮…
メーテルといえど
こうなれば
ただの牝だな…

これからは
我々の子孫繁栄の
ためにたっふりと
働いてもらうか…
ククク…

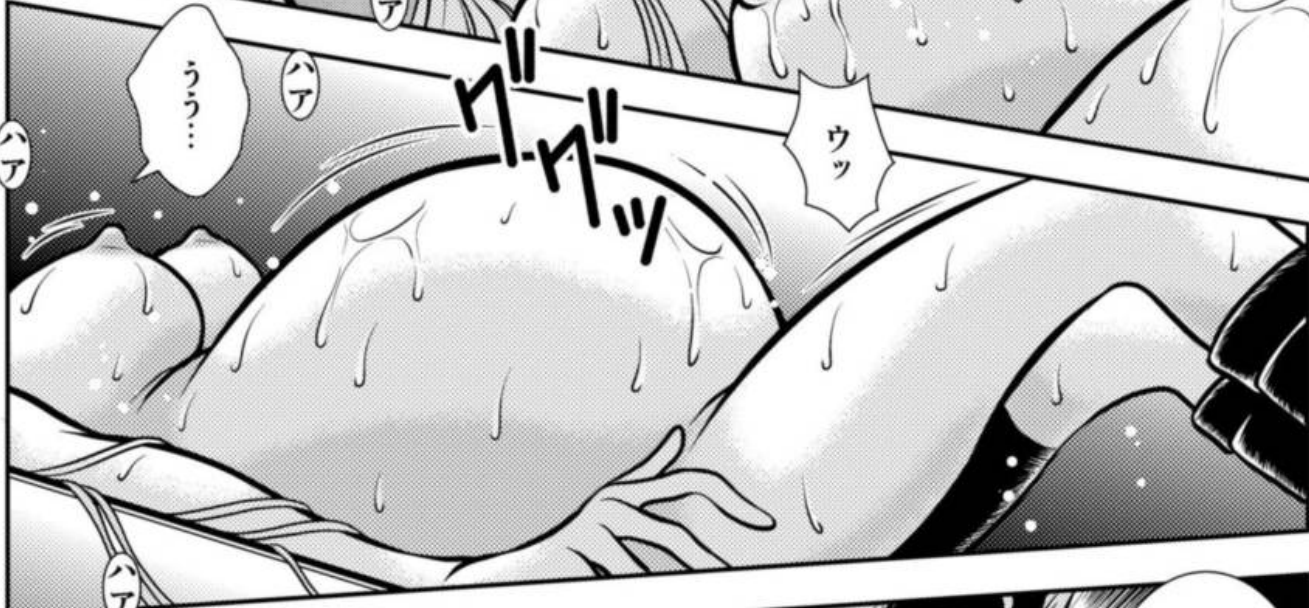


ハッ

アアッ

ハア

アッ



うう…

ハア

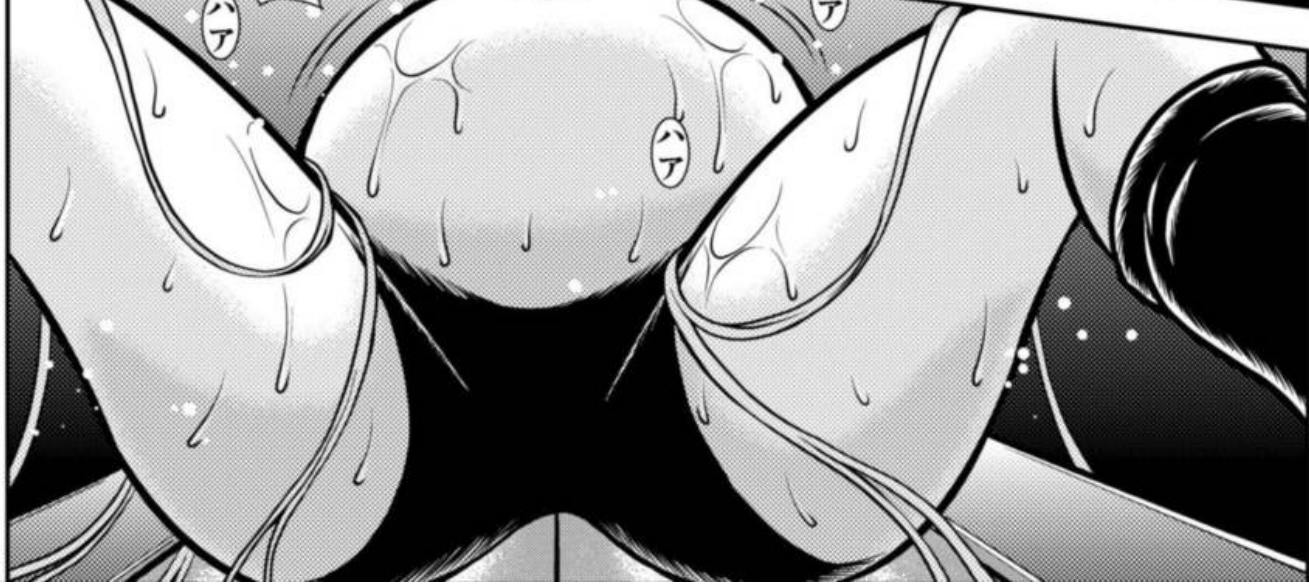
ムッ ムッ ムッ

ウッ



どうやら…
産気づいて
きたようだな
メーテル…

さあ…
我々の繁栄の
ために…
新しい命を
産むのだ…



ハッ

ハア

ハア

ハア



う…
産まれる…

あ…赤ちゃんが
産まれるツ…

う…

さて：メーテル
これからは
私の子供を死ぬまで
産み続けるんだ：

あ：
ああ：

は：
はい：

喜んで：
あなた：

もっと：
もっと…もっと
種付けしてえ：

孕ませて：
くださあい：

ESYO

あとがき・・・

このたびはMaetelStory13をお買い上げいただき、ありがとうございます。

本シリーズも13作目となり、少なからず、マンネリ化を感じてきたこともあり今回は原作のネタでは無く、オリジナルなストーリー仕立てにしました。そして思い切って妊娠・出産ネタで描いてみました。同じ描くなら鉄郎以外の男の子供を孕む話にしよう。さらに、鉄郎との絡みは無く、車掌さんとの情事を入れてみました。

こういったシチュエーションが苦手な人もいますが、いかがでしたでしょうか。次回作は未定ですが、今まで通りの感じに戻るかも知れませんし、もっと大胆な話になるかもしれません。感想などをお聞かせいただくと、次回作への励みとなります。ありがとうございました。でわ。





Kaguyane